

令和5年度学校評価（自己評価）の報告

印西市立小林中学校

1 アンケート結果

(1) 生徒アンケート結果

- ・数字は「そう思う」「どちらかと言うとそう思う」と肯定的な回答の%
- ・矢印は昨年度の結果との比較、3%以内の増減は「-」のマークで表記
(回収率：91%)

No	評価項目 (%)	R 4	R 5	比較
1	あなたは、学校のめあてや目標を知っていますか。	9 7	9 6	—
2	あなたは、進んで学習に取り組んでいますか。	8 2	8 7	↑
3	授業はわかりやすいですか。	9 3	9 4	—
4	あなたは、家庭で宿題や課題等、家庭学習に取り組んでいますか。	8 1	8 1	—
5	あなたは、友達を大切にしていますか。	9 7	9 8	—
6	あなたは、自他の命を大切に、感謝の気持ちを持って生活していますか。	9 9	9 8	—
7	あなたは、健康に気を付けて生活していますか。	8 7	9 8	↑
8	先生方は、あなたの良さや頑張りを認めてくれていますか。	9 6	9 6	—
9	先生方は、いじめがあったとき、よく話を聞いて対応してくれていると思いますか。	9 3	9 4	—
10	学習や生活で困ったことがあった時、先生方はすぐに話を聞いて対応してくれていると思いますか。	9 5	9 6	—
11	あなたは、事故にあわないように気を付けて生活していますか。	9 9	9 9	—
12	学校の施設・設備は整っていると思いますか。	8 8	7 6	↓
13	保護者や地域の方々で行う活動は充実していますか。	7 7	7 6	—

〈成果と課題〉

- ほとんどの項目で肯定的な結果となった。特に、本校の課題の1つである学習面では、大幅な改善が見られた昨年度と同様の割合になった。各学年で、ワークマスターや自習プリント作成等の取り組みを行った成果が見られた。項目8～10の教師の対応についても、普段から生徒とのコミュニケーションを大切に、家庭との連携や教育相談の充実に取り組んだことで良い結果になった。
- 学習面では、今後とも主体的に取り組む学習ができるよう、学習意欲の喚起とそのためへの指導方法の工夫・改善を図る。特に、ICT機器の活用をさらに充実させる。また、項目5・6に関しては、大変良い回答だったので、家庭との連携や教育相談の充実を継続しつつ、道徳や学活でも意識の向上をさらに図っていきたい。

(2) 保護者アンケート結果

- ・数字は「そう思う」「どちらかと言うとそう思う」と肯定的な回答の%
- ・矢印は昨年度の結果との比較、3%以内の増減は「-」のマークで表記
(回収率：75%)

No	評価項目	R 4	R 5	比較
1	あなたは、学校の教育方針や教育目標をご存じですか。	6 3	6 5	—
2	お子さんは、意欲的に学習に取り組んでいると思いますか。	6 9	6 6	↓
3	お子さんは、授業がわかりやすいと言っていますか。	5 7	5 9	—
4	お子さんは、家庭で宿題や課題等、家庭学習に取り組んでいますか。	7 3	6 7	↓
5	お子さんは、友達を大切にしていると思いますか。	9 7	9 6	—
6	学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実を努めていると思いますか。	7 2	7 4	—
7	お子さんは、健康に気を付けて生活していると思いますか。	7 7	7 6	—

8	学校は、一人ひとりの子供を大切にしたい指導や対応ができていますか。	77	73	↓
9	学校では、いじめがあったとき、すぐ話を聞いて対応してくれていますか。	66	59	↓
10	学習や生活で困ったことがあった時、先生方はすぐに話を聞いて対応していますか。	80	76	↓
11	学校は、子供の事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	82	76	↓
12	学校の施設・設備は整っていると思いますか。	65	67	—
13	学校は、市や地域の環境・施設・人材を教育活動に活かしていると思いますか。	61	62	—

〈成果と課題〉

- 保護者の方からも全体的に肯定的な評価であった。しかし、学習面の項目2・4において、昨年度より下がる結果となった。生徒アンケートとは逆の結果がでている。今後、学校が取り組んでいることや生徒の頑張りのようすについて、学級通信やホームページ等で保護者に多くの情報を発信していく。
- 生活面において、項目7～11の結果が昨年度より下がっていたのが課題である。これまで以上に、きめ細かな指導、教育相談の充実、アンケートの実施等を通し、家庭と連携しながら、生徒指導の充実に努めていく所存である。ただし、「わからない」の回答が全体的に低くない。これは、保護者が実際の学校の現状や学校の取り組みについて把握されていないため回答できていないと考えられる。いじめはその学校でも必ず起こるものとして、常に組織的に対応していく状況を積極的に伝えていきたい。

2 自己評価から

教員による自己評価を実施した。主な評価は概ね以下のとおりである。

- (1) 学習面においては、生徒の取り組みが少しずつよくなっている。しかし、学習時間が結果に結びつかない生徒も多いので、取り組み方を見直し、自分に合った学習方法の確立に向けた助言等が求められる。
- (2) 生活面においては、全体的に落ち着いた生活を送ることができている。ただし、一部生徒に落ち着きがなかったり身の回りの整頓ができなかったり等、課題もある。これらの個別の対応と全体への対応とのギャップが大きいのが課題である。
- (3) 特別支援教育では、個別の教育支援計画及び個別の指導計画をもとに、保護者と合意形成を図りながら進めることができた。また、校外学習や小中連携事業等、生徒の交流や活動機会が増え、生徒の大きな成長が見られた。
- (4) 安全教育については、避難訓練の実施等、安全な生活を啓発してきた。また、年々増えていく自然災害への対応、新型コロナウイルス感染症、不審者対応のマニュアルの改善を図った。施設の修繕や故障等、市教育委員会と連携して素早く対応できた。施設の老朽化、震災後の施設のゆがみや傾きが今後も心配である。
- (5) 生徒間の活動に制限がなくなった状況であるが、生徒は引き続き感染対策に気を配る行動が見られた。また、活動が多くなってきたので、基礎体力の低下がより顕著に表れている。

3 学校評価委員会議から（3月1日実施）

（1）参加者（学校評価委員4名、校長、教頭）

- ・小林中学校第3代校長
- ・小林住みよいまちづくり会理事長
- ・社会福祉協議会小林地区理事
- ・青少年相談委員小林地区長（欠席）

（2）会議の内容

- ①本年度の本校活動について
- ②3年生の進路状況について
- ③学校評価アンケートについて
- ④意見交換

<主な意見>

- ・今回の結果はたいへんよい数字である。先生方のがんばりのおかげだと考える。また、地域や家庭での協力があったことだと思う。
- ・3年生はよく頑張った。進路についてもよい結果になるとよい。
- ・予餞会は感動した。合唱がとてもよかった。
- ・学校と子ども、家庭と子ども等のコミュニケーションの機会をもっと増やせるとよい。
- ・保護者の中で「わからない」と回答している保護者は、どちらに向けてよいかわからないと考える。学校で少しでも学校評価の方向性を示すことで、同じベクトルを向き、肯定的な意見が増えるだろう。
- ・小学生は、もっと挨拶ができるとよい。

【学校運営について】

- ・本校課題の長欠対応について、「びおねろの森」等のフリースクールや市の適応指導教室など、選択肢が増えてきたので連携を図れるとよい。
- ・部活動移行の推移について、学校での現状を伝えた。小林地区での受け入れについて考えていく必要がある。
過去には、生徒数が多くいたので、部活動も盛んに行われていた。今回、吹奏楽部の演奏が聴けてよかった。
- ・生徒数の変動は現状維持である。
- ・生徒たちは地域の方の支えに感謝している。特に、子ども守り隊の活動は生徒もよく見ており、挨拶もしてくれる。

4 次年度に向けて

本年度の学校評価アンケートの結果及び学校評価委員会議で出された意見を基に、学習指導・生徒指導・特別支援教育・安全・保健・学校行事等の課題を明確にし、次年度に向けて改善していく。特に、学校での取り組みをもっと多くの保護者や地域の方に伝わるような手立てを講じたい。